

令和元年度学校評価アンケート結果考察

- ・回収 保護者 132人 生徒 163人
- ・質問項目 保護者 39項目 生徒 36項目
- A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない
- D まったくあてはまらない E わからない により実施しました。

<保護者>

例年、保護者からは全体的にとっても良い評価をいただいているが、今年はE(わからない)の割合が比較的多いため、AB、CDいずれの割合も減少し、単純な比較が難しいため、AB合計の割合ではなく、左下の表のようにAの割合に注目した。昨年50%を超えた項目が増加し、さらに今年は昨年よりもAの割合が増加していることが見て取れる。

一方、右下の表のように、39項目ある中のほとんどの項目で昨年よりCDの割合が大きく減少しており、学校に否定的な意見が減少していることがわかる。

内訳	A割合 (単位：項目)		
	H29	H30	R元
50%以上	1	7	8
40%以上	8	20	23
30%以上	21	9	8
それ以下	7	2	0

内訳	CD合計割合 (単位：項目)		
	H29	H30	R元
15%以上	1	6	1
10%以上	7	18	1
5%以上	21	13	13
それ以下	8	1	24

(成果)

(AB合計割合)

AB合計割合が上昇傾向にある主な項目	H29	H30	R元
11 一斉配信メールサービスは有効に活用されている。	75.6%	91.1%	94.7%
13 学年から発行されている「学年通信」をとおして、主体的に進路を選択し、決定できる能力の育成を図っている。	80.0%	80.4%	81.8%
16 教員は授業をとおして、学力が向上するように指導している。	86.3%	85.4%	86.4%

全体的にAB合計割合が減少する中、その割合も上昇していたのが以上の項目である。メールサービス、学年通信など、外部発信の面で保護者の評価が向上していることがわかる。

(課題)

(CD合計割合)

CD合計割合が10%を超える項目	H29	H30	R元
3 お子様(子ども)はよろこんで学校に行っている。	13.1%	20.9%	11.4%
6 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。	18.8%	27.8%	19.0%

一方、全体的にCD合計割合が大きく減少する中で、その割合が10%を超えていたのが以上の2項目である。「6 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。」は以前からの課題であり、生徒への指導を徹底したい。「3 お子様(子ども)はよろこんで学校に行っている。」については、AB合計割合が85%を超えており、改善傾向にもあるため、見過ごしてしまいがちだが、「あまりあてはまらない」と感じている保護者が一定数いるという事実を忘れず、一人一人に対するきめ細かい指導を継続していきたい。

<生徒>

AB 合計割合を見ると、昨年より減少傾向にあるように見えるが、多くの項目で CD 合計割合も減少しているため、一概に悪くなっているとは言えない。13 項目で AB 合計割合が昨年より増加しており、部分的な改善が見られるところは評価でき、今後に期待できる。なお、昨年度まで唯一 AB 合計割合が 90%以上だったのは「19 本校では、社会のルールにふさわしい服装、頭髪等の指導を行っている。」だが、今年は 85%になっている。

内訳 AB 合計割合 (単位:項目)			
	H29	H30	R元
90%以上	1	1	0
80%以上	3	8	7
70%以上	16	20	19
それ以下	15	6	10

内訳 CD 合計割合 (単位:項目)			
	H29	H30	R元
20%以上	10	4	3
15%以上	18	14	11
10%以上	11	12	11
それ以下	5	9	14

(成果)

(AB 合計割合)

AB 合計割合が上昇傾向にある主な項目	H29	H30	R元
6 本校では、通信やホームページ等を用いて、様々な情報を速やかに伝えている。	54.6%	61.3%	66.9%
17 「産業社会と人間」「総合学習の時間」の内容は自分にとって有意義である。	67.8%	68.8%	72.4%
31 本校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	64.4%	72.8%	77.9%
32 本校では、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。	71.8%	75.7%	82.8%
33 本校では、地域の行事や清掃活動などに積極的に取り組んでいる。	78.7%	80.9%	84.0%

情報発信については保護者同様、生徒の評価も高まっている。エアコンの設置などにより、施設・設備に対する評価も向上した。ボランティア、地域行事などに対する評価の高まりからは、生徒の中にも「本校が地域に貢献する学校である」、という意識が浸透してきていることがうかがえる。

(課題)

(CD 合計割合)

CD 合計割合が 20%を超える項目	H29	H30	R元
5 家庭で学校に関する話をしている。	28.7%	26.6%	28.8%
9 悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い。	20.7%	18.5%	20.9%
30 本校では、清掃が行き届いており校内がきれいである。	21.8%	20.8%	23.3%

CD 合計割合が 20%を超えていたのがこの 3 項目である。家庭での対話不足は以前からの課題だが、「9 悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」にあまり当てはまらないと感じている生徒が増加傾向な点には注意が必要である。清掃については掃除監督の教員減、生徒減の影響が出てしまった形だが、9 月から用務員補助の職員が配置されることにより、改善が期待できる。

一方、CD 合計割合は 20%を超えておらず、評価は高いものの、A 割合、AB 合計割合ともに減少しており、気になるのが下の 2 項目である。

A割合、AB合計割合、ともに減少傾向にある主な項目		H29	H30	R元	
15 本校の先生は、授業等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。	A	23.0%	27.2%	22.7%	-5.5%
	AB	64.4%	77.5%	69.3%	
16 本校では、教科により習熟度別授業や少人数授業があり、それが学習の理解につながっている。	A	40.8%	44.5%	37.4%	-7.1%
	AB	82.2%	82.7%	79.8%	

習熟度別や少人数授業による一人一人の能力に応じたきめ細かい指導は本校の非常に大きな魅力として外部にアピールし、認知もされているものである。しかし、募集定員減少に伴う教員数減少に対応するため、今年度分割授業をかなり減らし、習熟度別授業の分割数も減らすなどして教員の持ち時間数の削減を図ったが、生徒はその変化を敏感に感じ取っているようである。